

## 【7/31 福島、山木屋グリーン牧場訪問】

高橋さん親子、牧場から川俣町に避難。たいへん厳しい汚染。

# お母さん、少し元気でいました。

牧場は、「陸水域モニタリング大学連合チーム」の試験場に

二本松のビジネスホテルで31日未明の福島地震で起こされて、明け方そのまま牧場再生の可能性を探りに山木屋へ出発。牧場で高橋さんと待ち合わせの約束で、先に到着したところ、すぐにパトカーが止まり職務質問、免許証の提示を求められる。

「お父さんの代から25年にわたってこの牧場の牛乳を頂いてきた消費者の生協です。今日は牧場主といっしょに土壌や線量を測定しに…」名刺と免許証を渡す。

「はあ～25年ですか…。いや念のためですから…」若い警察官が申し訳なさうに。

高橋さん親子も到着。避難区域は治安が悪く、特に隣の飯館村は盗難が多いので、他県ナンバーの車が止まるとすぐに調べられるとのこと。牧場の入口で線量計は13.0  $\mu$ Sv/hを指している。守谷の100倍だ。

「これ、線量計ですか？土壌も調べるんですか？車のカギは掛けておいて下さい」と警察官。

高橋さん親子、少し元気でした。よかった。

最後の1頭はお産を待たずにセリに出して7/2に避難・牧場を撤収。お母さんは「旅行」にも行ったとのこと、少し元気になって笑顔も見られるように。

「毎朝、起きれば牛にあいさつだったけど、牛飼いの旅行なんて最初で最後かな？牧場も1ヶ月ぶり」

息子さんの健司さんは見回りに来ていて1週間ぶりとのこと。山木屋地区の住民は香川県から招待されて無料で保養に。健司さん家族も3日間香川県三木町に行かれていたとのこと。牧場横の事務所のカギを開ける。川俣町にいた娘さん夫婦と5人の子どもの香川県の小豆島に移住。向こうでオリーブを使ったレストランを開いたとのこと。お父さん思いで働き者、結婚前は牧場便りを作り、牧場の売店を切り盛りしていた娘さん。

生協のニュースに載った組合員の声を渡す。

「3/22～7/20までの間の積算線量は17ミリシーベルトなんだから。3/12から21日までは入っていない。最初は毎時10ミリシーベルトって言われていたから、4ヶ月で20ミリシーベルトは越えて、年間では70ミリシーベルトの被曝になるみたい。」



このロボットみたいな機械なんだろう？とお母さん。右が健司さん



牛がいないと草ぼうぼう。牧場内を測定する高橋さん親子。



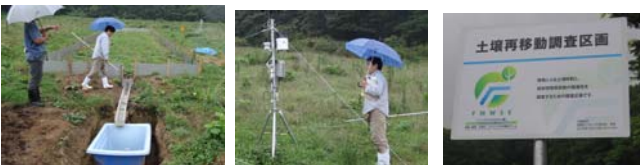
「牧場の損害分は県酪連の計算基準で3月、4月、5月分の請求を東電に出したが、3月・4月分が半額払い込まれただけ。牛乳・チーズプラントの方は、県酪連を通さずに直接消費者への販売のため請求できない」

急に、5年前に亡くなられたお父さんの顔が浮かび、私の方が涙がポロポロ。「常総生協の組合員といっしょに裏山の下草を刈り、山を拓き、牛を放して蹄耕法で生産者と消費者の共同牧場にする」と裏山の広大な国有林を買い上げてしまった矢先に急逝。天国から見ているのか。

思い直して「でも牧場の中調べてみましょう」と、健司さんとお母さんに線量計を渡し、私の方は土壌採取。

放牧地には、いろいろな機材が並び、試験地は囲いをされている。牧場内の山からの川の水質や風速や線量のデータが常時データで送られている様子。

福島陸域水域モニタリング大学連合チーム『土壌再移動調査区画』という看板が立てられ、「降雨による土壌移動と放射性物質移動の関連性を調査するための調査区画」とされている。健司さん「オレはこんな調査



枠がつくれ、いろいろな機材が置かれた牧場。大学連合チーム看板に牧場を提供するのは反対したのに、おふくろが…」

牛がいないとこんなに草ぼうぼうになるのか。これまではみんな牛が食べてくれていて、本当に美しい牧場だったのに…。

とにかく広い放牧地の山の上まで、雨の中を連れだって線量測定と土壌や草の採取をいっしょにやって、昼過ぎ「元気でいてね」と手を握って別れました。

## COOP-JOSO News Letter

常総生活協同組合  
発行/副理事長 大石  
tel:050-5511-3926

2011年度活動テーマ

発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。人々の協力で被災地復興と大地再生。

発酵と復興

【ものづくり、人づくり、地域づくり】

大人の責任として過ちを繰り返さない、  
これ以上子どもたちを危険な目にあわせない！

常総生協『**脱原発と暮らし見直し委員会**』

# 9月1日、正式発足へ

9/1(木) 10時～12時 生協本部1F会議室

## 委員を広く募集します。



7/22 準備会風景

理事会より事前呼びかけを行い、7/22に組合員有志と理事会合同で発足に向けた「準備会」を開催しました。位置付けや、活動の柱4点について確認し、9/1を正式発足とすることとなりました。

【活動内容(案)】

- ①放射能から家族・子どもたちを守る活動
- ②脱原発に向けた市民意志表示と共同連携
- ③暮らしの見直し活動(電気使用など)
- ④土壌、環境の再生活動(生産者と協同の取組み)

### 委員を正式募集いたします！

(裏面に申し込み書)

また、委員会の下に、「調査隊」や「ワーキングチーム」など、幅広い自主グループも結成予定。

特に、すでに活動が開始された「放射能調査隊」では、各地区の調査結果の合同発表会、公園砂場や校庭の土のベクレル検査、そのデータを持って行政や学校への対策申し入れ等の情報交換・交流会を予定しています。

### 【9～10月行事・催し物】

- 9/1(木) 常総生協内「**脱原発と暮らし見直し委員会**」発足(本部)
- 9/11(日) 広瀬隆 講演会「**脱原発を語る**」(土浦市民会館)
- 9/14(水) 発酵勉強会第二弾 お酢の「**キサイチ醸造工場見学**」(取手地区主催・利根地区共催)
- 9/19(月) **みんなで明治公園に行こう！**  
「さようなら原発1000万人アクション」明治公園5万人集会
- 10/2(日) 被曝予防セミナー「**放射線から子どもたちを守るために**」  
黒部信一さん(小児科医・チェルノブイリ子ども基金医療顧問)
- 10/18～23 いのちと平和を語り継ぐ  
「**テレジン収容所の小さな画家たち展**」(つくば美術館)  
生協もごいっしょに協賛させていただきます。期間中に映画会・お話しを聞く会も計画中





**広瀬隆 講演会「脱原発を語る」**  
 9月11日(日) 12:30開場 13:00開演  
 土浦市市民会館 大ホール

**広瀬隆 講演会 脱原発を語る**

土浦市民会館 大ホール  
 9月11日(日) 12:30 開場  
 13:00 開演

1980年代より原子力発電の危険性を指摘してきた広瀬隆氏は、昨年「原子力時限爆弾」を著し、原発の危険性と地震発生とのメカニズムを解明し、原子力産業の現状と欺瞞を明らかにしました。警告が現実のものとなったいま、事故現場の実態や汚染についてのリアルな現状を知ることができる！と、氏の講演会には、各地で立ち見が出る勢いで人々が押し寄せています。子どもたちを守るために、正しい情報を知って、何が出来るか、何をすべきかを一緒に考えましょう。

前売券：500円  
 当日券：700円  
 (高校生以下無料)

— 広瀬隆プロフィール —  
 東京生まれ。早稲田大学理工学部応用化学科卒業。大学卒業後、メーカーの技術者を経て、執筆活動を開始。医学文獻等の翻訳に携わる。1980年代初期の著作に「安全というならば、汚染線建設コストのかる地方ではなく、電力の大消費地である首都圏に原子力発電所を建設してはどうか」と指摘した『東京に原発を！(日経出版)』。著書と原発にひそむ人脈『腐食の連鎖』(集英社)。話題の近著に『FUKUSHIMA福島原発メルtdown』(朝日新聞出版)・・・など著書多数。

主催 広瀬隆講演会実行委員会  
 共催 脱原発ネットワーク茨城  
 連絡先 坂本 繁雄 090-3094-7326  
 川口 玉留 029-826-6600  
 江口 昌子 090-4850-2384  
 長田 満江 090-7843-6599  
 小黒色恵子 090-9108-0484

保育申込み 9月8日まで 1人500円  
 坂本幸子 090(3349)1430 熊ママメイト

放射能は微量でも危険です  
 年食が低くても放射能の危険が大きくなります  
 放射能はからだの中で特定の場所に集まる性質を持つので、濃縮されます。ガンや白血病の原因になるのはそのためです……  
 細胞タイプ別放射能濃縮率をグラフ化した報告書あり

被曝予防セミナー 小児科医黒部先生  
**「放射線被曝から子どもたちを守るために」**10月2日(日) 13:30~16:30  
 つくばサイエンスインフォメーションセンター

東電福島原発の事故によって、大量の放射性物質が放出され、大気・土壌・海・湖沼が広範囲に汚染されてしまいました。しかも、局所的な「ホットスポット」さえ存在し、実際に測定してみなければわからない状況が生まれています。私たちは、これから長い間放射能と向き合って生きてゆかなければなりません。

子どもに外遊びをさせてよいのか、食べものによる内部被曝はどのように注意したらよいのか、子どもの身体への影響はどうか？

小児科医であり、チェルノブイリ子ども基金の医療顧問をされて内部被曝の問題にも取り組み、今回の事故では「未来の福島子ども基金」の代表として活動されている黒部先生をお招きして、放射線被曝の問題や予防についてわかりやすく学ぶとともに、参加者同士で日常生活や子育てについて話しあい交流する会とします。

黒部先生とは、3月の常総生協組合員の母乳検査から始まった「母乳調査・母子支援ネット」の発起人としてごいっしょさせて頂いています。

**【黒部信一先生紹介】**未来の福島子ども基金代表。チェルノブイリ子ども基金医療顧問。慶応義塾大学医学部卒。国立埼玉病院小児科医長、吹上共立診療所所長を経て、現在堀之内病院小児科勤務。

**【会場案内】つくばサイエンスインフォメーションセンター**  
 つくば市吾妻1-10-1  
 ノバホール横  
 TXつくば駅から徒歩3分  
 周辺の駐車場をご利用下さい

**「常総生協・脱原発と暮らし見直し委員会」委員登録します**

9/1の第1回委員会に(参加します・9/1は参加できません)

コース名 \_\_\_\_\_ 班名 \_\_\_\_\_ お名前 \_\_\_\_\_

**9/11広瀬隆講演会「脱原発を語る」前売券申込書**

(前売券を受付に出して下さい。500円となります)

コース名 \_\_\_\_\_ 班名 \_\_\_\_\_ お名前 \_\_\_\_\_ 枚 \_\_\_\_\_

**10/2 被曝予防セミナー「放射線から子どもたちを守るために」**

参加申込書

コース名 \_\_\_\_\_ 班名 \_\_\_\_\_ お名前 \_\_\_\_\_ 人 \_\_\_\_\_

【7/30~31福島予備調査】「震災・原発事故からの復興再生支援」

**福島の大い再生支援に向けて**

- 福島(二本松)有機農家の野菜もセシウム各17ベクレル以下で不検出(土壌は3,000ベクレル水準)
- 山木屋グリーン牧場の土壌汚染は厳しい現実 放牧地は3万ベクレル台の汚染、牧草は2,000ベクレル

福島の生産者支援と農業再生に少しでも役に立てればと、常総生協で導入した放射能空間線量計(シンチレーション・カウンター)や、ベクレル計を福島の生産者の土壌や作物の検査に活用してもらい、再生の手がかりにってもらう協力の準備として、7/30~31に福島入りしました。

「計画的避難区域」に指定されて避難している私たちの産地・山木屋グリーン牧場高橋さん、あいコープふくしまの野菜セット生産者・二本松有機農業研究会代表の大内信一さん、船引有機農業研究会代表の橋本公一さんを訪問しました。

今回は、福島の汚染状況をまず客観的に把握するための予備的調査として、空間線量の測定とともに、土壌や野菜を預かり放射能濃度を測定して生産者にデータを戻しました。

二本松大内さんの畑土壌は2,000~4,000ベクレルですが、野菜への移行はセシウム134・137共に検出限界15~17ベクレル以下で「不検出」という結果でした。

除染作物としてメンバーの青年が実験として植えていた「ひまわり」は、土壌濃度3,330ベクレルに対して、セシウム137が21.5、134が16.3ベクレル。計37.8ベクレル。地上部がどの位の総重量になるかにもよりますが、kg単位では吸収率は1.14%という結果で、日本の粘土土壌で充分な除染効果があるかどうかは今後検証が必要です。

山木屋牧場はたいへん厳しい現実をつきつけられました。(大石)

**【福島予備調査の結果】**

調査所在地	生産者名	試料名	調査・試料方法	【ヨウ素131】		【セシウム137】		【セシウム134】		セシウム計		【空間線量】 (μSv/h)				
				放射能濃度 (Ba/kg)	検出限界 (Ba/kg)	放射能濃度 (Ba/kg)	検出限界 (Ba/kg)	放射能濃度 (Ba/kg)	検出限界 (Ba/kg)	放射能濃度 (Ba/kg)	政府暫定 基準 (Ba/kg)					
福島県	川俣町	山木屋 グリーン牧場 (避難区域)	土壌①(広場)	シンチ放射線計	不検出	134.0	9,980	±601	77.8	8,760	±502	101.0	18,740	5,000	10.50	
			土壌②(山側)	シンチ放射線計	不検出	68.4	2,330	±141	39.4	2,070	±125	50.2		4,400	5,000	5.20
			土壌③(放牧地)	シンチ放射線計	不検出	143.0	10,600	±637	80.9	9,310	±560	102.0		19,910	5,000	6.14
			土壌④(放牧山地) 牧草(山斜面④)	シンチ放射線計	不検出	186.0	17,700	±1060	106.0	15,500	±934	136.0		33,200	5,000	5.34
			土壌⑤(放牧山地) 牧草(中腹丘⑤)	シンチ放射線計	不検出	56.1	1,130	±69.6	34.3	1,010	±59.1	48.5		2,140	500	
	二本松市	大内信一	土壌(畑①宮戸) →じゃがいも	シンチ放射線計	不検出	48.3	1,230	±74.5	27.9	1,070	±62.1	37.7		2,300	5,000	
			土壌(畑②宮戸) →人参	シンチ放射線計	不検出	9.3	不検出		15.7	不検出		15.5		不検出	500	
			土壌(畑③原田) →きゅうり	シンチ放射線計	不検出	42.8	965	±58.6	25.1	871	±50.5	32.3		1,836	5,000	0.85
			土壌(畑④中里) →なす	シンチ放射線計	不検出	8.9	不検出		15.5	不検出		13.5		不検出	500	
			土壌(畑⑤正法寺) →ひまわり	シンチ放射線計	不検出	65.1	2,250	±136	37.5	1,980	±114	49.8		4,230	5,000	
田村市船引町	橋本公一	土壌(畑④中里) →なす	シンチ放射線計	不検出	9.1	不検出		15.2	不検出		14.8		不検出	500		
		土壌(畑⑤中里) →なす	シンチ放射線計	不検出	55.3	1,620	±98.1	32.5	1,430	±82.4	43.9		3,050	5,000	0.80	
		土壌(畑⑤正法寺) →ひまわり	シンチ放射線計	不検出	10.0	不検出		17.4	不検出		15.5		不検出	500		
		土壌(畑⑤正法寺) →ひまわり	シンチ放射線計	不検出	59.3	1,780	±108	33.8	1,550	±89.2	44.8		3,330	5,000		
		土壌(水田)	シンチ放射線計	不検出	11.5	21.5	±1.56	4.6	16.3	±3.17	12.4		37.8			
田村市船引町	橋本公一	土壌(畑/自宅前) →ねぎ	シンチ放射線計	不検出	61.8	2,120	±128	35.8	1,830	±106	49.4		3,950	5,000		
田村市船引町	橋本公一	土壌(畑/自宅前) →ねぎ	シンチ放射線計	不検出	37.5	704	±43.0	22.1	603	±35.2	30.4		1,307	5,000	0.47	
田村市船引町	橋本公一	土壌(畑/エゴマ畑) (参考)裏山の農業土	シンチ放射線計	不検出	8.9	15.5	±1.88	8.0	N.D.		13.1		16	500		
田村市船引町	橋本公一	土壌(畑/エゴマ畑) (参考)裏山の農業土	シンチ放射線計	不検出	30.5	416	±25.8	19.5	374	±22.2	29.5		790	5,000	0.38	
田村市船引町	橋本公一	土壌(畑/エゴマ畑) (参考)裏山の農業土	シンチ放射線計	不検出	77.3	2,510	±15.2	47.5	2,220	±128	63.9		4,730	400		

(測定器)アロカCAN-OSP-NAI (測定時間)土壌:30分 野菜・牧草:60分 (ひまわりのみ精度を上げるため6時間で測定)



牧場内の空間線量を計る高橋さん親子



二本松の大内さん



エゴマ畑の線量を計る橋本夫妻